

Nature



“パラソルのふち”を思わせる、美しい新宮海岸



Coast

新宮といえば“海”を思い浮かべるほど、新宮海岸は私たちの町にとって大切な風景です。海岸は夏には良好な海水浴場として、また海岸一帯は砂浜や松林、磯崎神社や綿津見神社など、美しい景観と歴史が楽しめる散策コースとしても親しまれています。通称“パラソルのふち”といわれるゆつたりと弓なりに続く優美な海岸線には、歳月を感じさせる松が2 km以上にわたって植えられています。これは17世紀、当時の福岡藩が植林したもので、海風や砂から作物を守る目的から「楯の松原」と呼ばれました。1706年には20万本もの松の苗を植えたという記録もあり、その後も松林は厳しく保護されてきました。何世紀にもわたって守り継がれたからこそ、今の美しい新宮海岸があるのです。

白砂青松を誇る美しい海岸線



海、島、そして山。四季折々に美しい自然

新宮町には、南東にクスノキの原生林が残る立花山、北西に新宮海岸、そして大陸との交流の舞台となった玄界灘に浮かぶ相島など変化に富む自然が多く残っています。この二帯は昭和31年に「玄海国定公園」に指定されています。このような自然環境を守るため、町では平成14年に「緑の基本計画」を、平成25年には「環境基本計画」を新たに策定し、持続可能な社会の構築に取り組んでいます。



立花山のふもとに広がる、緑あふれる環境

国道3号から立花山方面に向かうと、緑あふれる、のどかな風景が今も残っています。

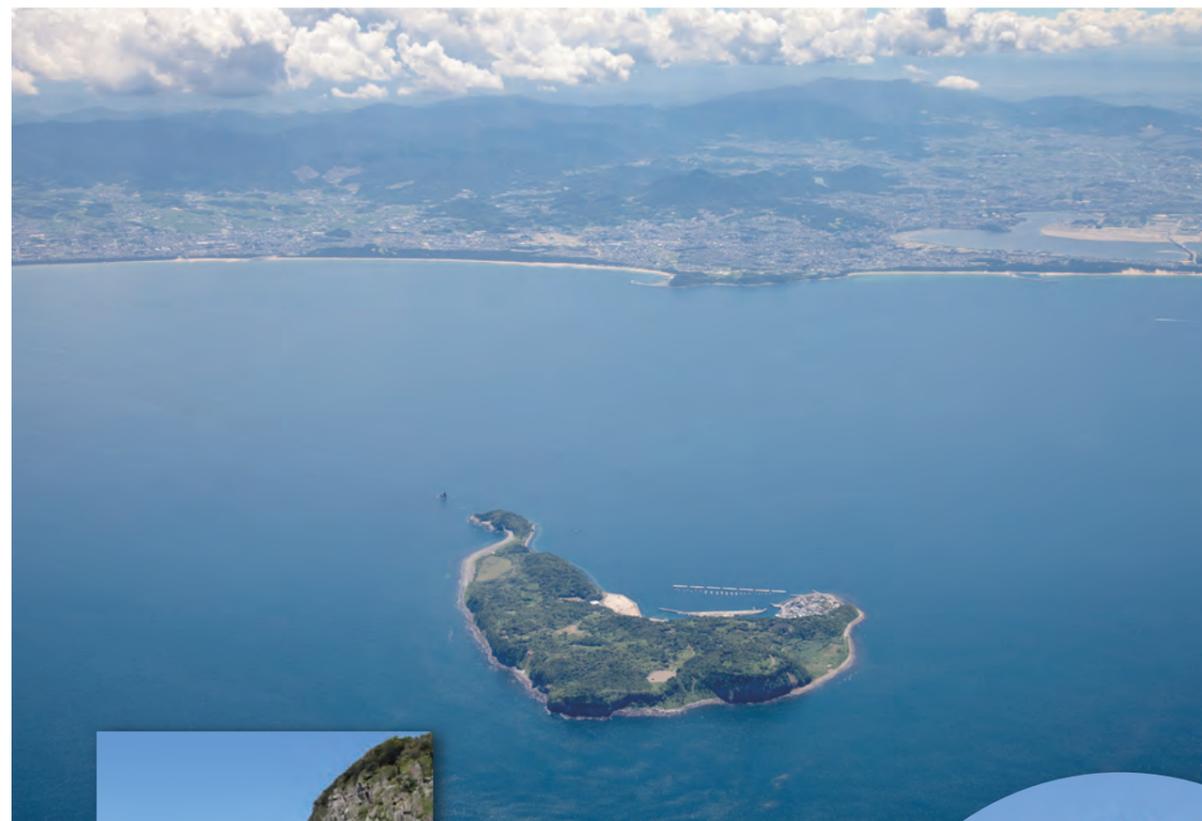
初夏の新緑、秋の紅葉など季節を感じさせる里山の景観は、大切に守りたい町の原風景の一つでもあります。

町の中央部から海岸にかけては、海拔50m以下のなだらかな丘陵や平野となっています。ここは商業施設や住宅地、農地などに利用されていますが、そんな中にも溜め池や緑地、桜並木などが点在。移りゆく季節を身近に感じさせてくれます。

町では環境の保全および創造に関する施策を総合的に推進する「環境基本計画」を策定し、現在ある優れた自然環境を保全するとともに、地域の特色ある環境を活かした公園などの憩いの場の創出を進めています。



立花山のふもとには、なつかしい里山の風景も残る



玄界灘の荒波がつくった豊かな造形美



島北部にある柱状節理の絶壁



島の東300mの海上にある「めがね岩」。高さ20m周囲100mで、全体が玄武岩でできている。県指定史跡(名勝)である



新宮漁港から北西約7.5km、町営渡船で約20分の海上に浮かぶ「相島」。周囲6.14km、ハート形の小さな島内には国指定史跡の「相島積石塚群」など貴重な遺跡や神社をはじめ、珍しいめがね岩や柱状節理の絶壁など大自然の造形美が多く、観光名所として定着しています。また釣りのスポットとしても人気があり、ほかにも伝統の祭りなどの年中行事も多彩です。

島では対馬海流の豊かな漁場を利用した沿岸漁業が盛んで、タイやブリなどの一本釣り、アワビ、サザエなどの潜り漁、イカかご漁などが行われています。

また、全国でも珍しい天然のアカヤ貝を使った真珠の養殖が行われており、高品質の真珠が採れています。

Green Mountain



貴重な自然がのこる立花山



山頂からは博多湾、玄界灘の大パノラマがひろがる

しています。クスノキの原生林（原始林）としては自生の北限といわれるこの森には、平成12年、林野庁が日本の「森の巨人たち100選」に選んだ「立花山の大クス」（幹周785cm、樹高30m）があります。

町の東部にはハイキングに適した立花山（標高367・1m）があり、山頂からは町内はもろろん、はるか玄界灘や福岡市まで一望できます。
立花山は国指定特別天然記念物「クスノキ原始林」をはじめ、修験坊の滝、ナギの大樹、一本杉、屏風岩、夫婦杉などがあり登山ルートには自然のスポットも豊富。登山道も整備されており、4月の第2日曜日には「立花山山開き」があり、年間を通して多くの登山客が訪れています。
クスノキがあるのは中腹から山頂にかけてで、樹齢300年をこえる老木約600本が自生



多くの登山客が訪れる立花山。身近な山として親しまれている